

平成 31 年 3 月 吉日
船橋希望学舎
世田谷区立船橋希望中学校
校長 菅野 茂男
学校関係者評価委員会事務局

平成 30 年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

1 「基礎・基本の定着と質の高い学びを培う」について

- (1) 生徒たちが学ぶことを好きになる授業を実践し、学ぶ意欲を高めることで、主体的に学ぶ態度を育成した結果、学校関係者評価保護者用アンケートの「子どもたちは、主体的に学習に取り組んでいる」の項目において、肯定的な評価が 82% で前年度を上回った。さらに細かく見ると、肯定的な評価が前年度の 2 年生が 72% であったが、本年度 3 年生になっての評価が 87% となり、大きく上回った。
- (2) すべての教科においてグループ学習や話し合い学習を取り入れ、個々の生徒が表現し、それを互いに見聞きすることで理解を深め合いながら学びを深め、思考力・判断力・表現力を育んできた結果、学校関係者評価保護者用アンケートの「本校は、授業を通して、子どもたちに学力がついている」の項目において、肯定的な評価が 73% で前年度の 70% を上回った。
- (3) すべての教科において ICT を積極的に活用した分かりやすい授業を実施し、教員からの一方的な授業ではなく、教員と生徒、生徒と生徒の双方向の授業を実践してきた結果、学校関係者評価保護者用アンケートの「本校は、子どもにとって分かりやすい授業をしている」の項目において、肯定的な評価が 79% で前年度の 75% を上回った。また、生徒も「授業の内容は、よく理解できる」の肯定的評価が 87% と高水準を保っている。
- (4) 数学と英語の少人数指導や、個に応じた指導を続けてきた結果、学校での学習についての生徒アンケートの「数学英語の少人数指導は充実していると思いますか」の肯定的意見が 2, 3 年生ともに 80% を大きく超え、特に 3 年生はどちらの教科も 90% を超えている。

2 「『NIE タイム』 - 土曜日の朝は、みんなで新聞を読もう - の充実」について

- (1) NIE コーナーで立ち止まって新聞に目を通す生徒が増えつつある。さらに校長室前には、新たに紙面比較のコーナーを設け、例えば同じ事件が新聞社によってどのように取り扱われているかなど、一目でわかるような工夫を行い、生徒たちが新聞と触れ合う機会を増やすことができた。
- (2) 教室にはいつも新聞があり、興味深い記事を探して読み、情報を得ようとする生徒が増えてきており、NIE 日直などの工夫した取組を実践する学級も増えてきている。
- (3) 毎月の NIE タイムにより新聞に慣れ親しみ、学校行事の後のまとめを新聞形式で製作することを通して表現の力を育てることができた。また、新聞を読み込む経験から情報の選択・活用能力を磨き、思考力や判断力も育ててきた。

これらの実践を行ってきた結果、学校関係者評価生徒用アンケートの「私は、NIE タイムや NIE コーナーにより、新聞に興味をもつようになった」の項目において、肯定的な評価が 42% で前年度の 37% を上回った。また、「新聞を読むことによって、自分の考えをもつようになった」の項目において、肯定的な評価が 41% で前年度の 36% を上回った。

3 「世田谷 9 年教育『船橋希望学舎』の活動」について

- (1) 学舎合同学校協議会を 11 月 26 日に実施した。学舎の各学校の教員、保護者、地域の方々が意見を交わし合い、共に考え、情報を共有することができた。
- (2) 学舎合同家庭教育学級を 12 月 8 日に実施した。講師の方のお話を聞き、小中学校の PTA が連携した活動を成功させた。
- (3) 各学期の初めにあいさつキャンペーンを実施した。朝早くから保護者や地域の方々が多数協力していただき、代表生徒が小学校に行ってのあいさつ運動を通して、小中学校の交流も進めることができた。
- (4) ICT の活用、効果的な授業展開や教材の工夫に取り組んできた。また、学校ホームページを多く発信することで、船橋希望中学校に対する親しみや理解を深めている。

これらの活動の成果として、学校関係者評価保護者用アンケートの「船橋希望学舎の小学校・中学校的連携や交流活動が行われている」の項目において、肯定的な評価が 76% で前年度を上回った。